

令和 6 年度 東京都地域活動に関する検討会（第 3 回）

事前アンケート 集計結果

《地域住民とのコミュニケーション・情報発信について》

東京都生活文化スポーツ局

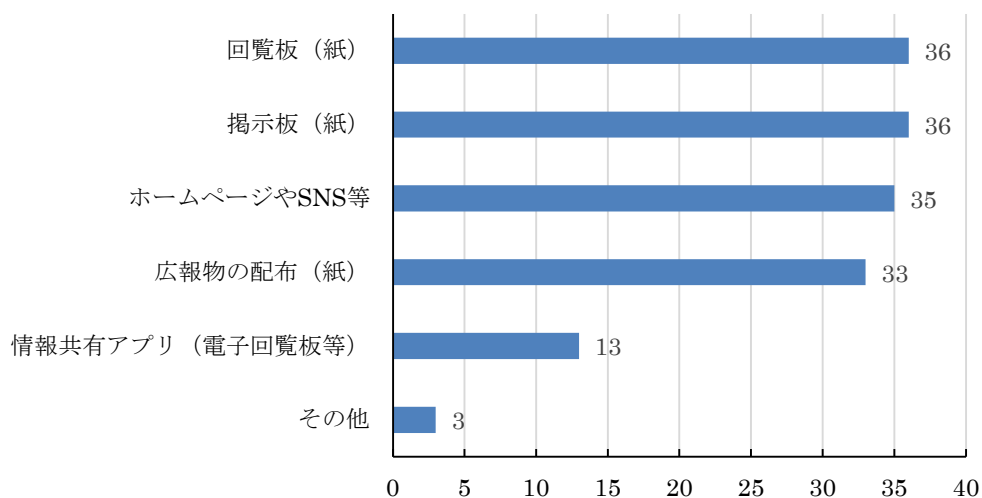
令和 7 年 3 月

1 情報発信で活用している方法

38 連合会に対し、連合組織又は加入されている単一町会・自治会において、情報発信で活用している方法について調査し、以下のような回答があった。

図1

※複数回答可

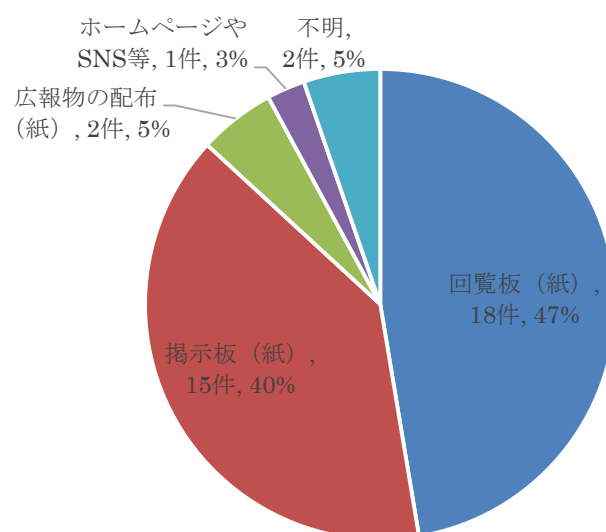


○ その他の回答

- ・地域の地区協議会が運営するホームページの「自治会のひろば」を活用して月次活動報告（回覧）の掲示、重要イベントの案内を実施している。
- ・お知らせマイク放送
- ・防災行政無線（地形的な要因から防災行政無線の個別受信機が各家庭に設置されており、臨時放送を各地区（主に自治会単位）で放送できるようになっている。）

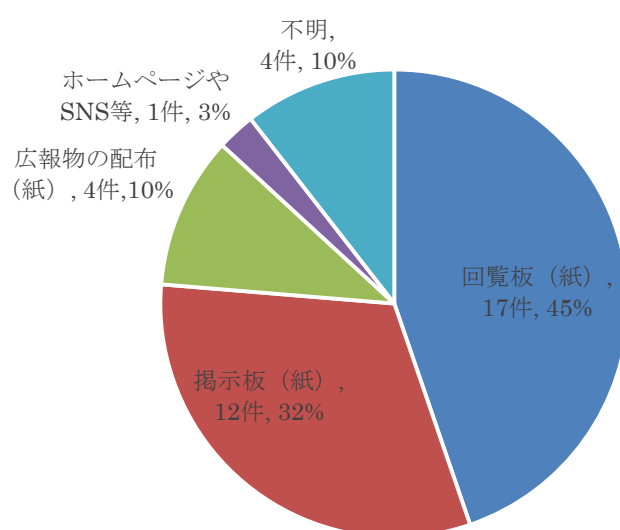
<最も活用している方法>

図2



<一番反響が大きい方法>

図3

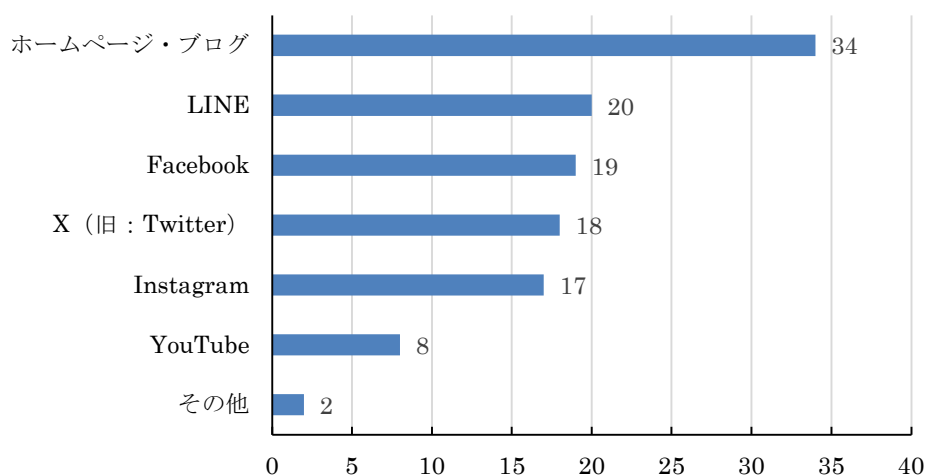


3 情報発信のために開設等しているもの

連合組織又は加入されている単一町会・自治会において、情報発信のために開設等しているものについて以下のような回答があった。

図4

※複数回答可



<その他の具体的な内容>

- ・区民活動情報サイト
- ・いちのいち

4 情報発信に当たって工夫していること

○ 発信頻度の工夫

【ホームページ・SNS等】

- ・ 連合会 LINE 公式アカウントを開設しているが、発信が多過ぎると受け取り側が煩わしく感じることもあるため、週1回程度としている。
- ・ 最も頻繁に情報発信している町会は、ほぼ毎日複数回Xの発信を行っている。工夫している点として、担当町会員複数名がそれぞれXアカウントにログインできる体制をとり、事前調整をすることなく、各個人が地域情報等を発信したいタイミング（毎日の方もいれば週1の方もいる）で発信している点が挙げられる。
- ・ 新しい情報を載せるため、ホームページは頻繁に更新している。
- ・ 2年前の区の調査では、HP：月1回～2か月に1回、SNS：2週間に1回～2か月に1回の回答が多かった。新しく越してきた人にも興味を持ってもらえるような記事掲載。どんな情報を知りたいか調査。
- ・ 定期的に町内を見回り、不法投棄や防災・防犯面等で気になったことがある場合はすぐに町会HP等で発信し（週2回程度）、できるだけ多くの情報を町内の方々に届けられるようにしている。
- ・ 町会の公式LINEについて、最低でも月に一度はメッセージを配信し、公式LINEの存在を印象付けている。
- ・ ホームページの更新頻度を多くする。
- ・ ホームページは、随時更新している。

【広報物（紙）】

- ・ 広報誌を年6回程度発行。
- ・ 会報誌、お知らせ・案内チラシを必要に応じて発行。情報アプリで直ぐに発信している。発信は、それぞれ1回/月、2回/月まちまち
- ・ 行政配布物が月に3回あり、それに合わせて発信することが多い。
- ・ 町からの配布物や回覧板の配布が月に2回あるため、組長等の負担軽減を図るためにも、自治会からのお知らせも町からの配布物に合わせて配布するように心がけている。

【掲示物・回覧物】

- ・ 掲示板及び回覧に使用する広報媒体の定期的な配付、掲示、回覧
- ・ 月に一回、回覧物を各自治会に郵送する。月に2回の連合組織の会議で回覧物を配布する。
- ・ 回覧をする頻度を月に1回程度にしている。

- ・回覧は原則毎月 1 回実施、内容は月次活動報告、月次活動予定、会員の訃報情報、市の安心安全メールなどを掲載している。掲示板（6 か所）は都度掲示
- ・掲示板掲示と回覧は、基本的には月 1 回の市からの回覧・掲示物送付日に合わせて行うようにしている。
- ・町内会・自治会が公共機関等から依頼される回覧及びポスター掲示については、月 2 回（1 日、15 日）実施している。

【その他】

- ・イベントごとに情報発信をしている。（月 3 回以上）
- ・町会によりさまざまではあるが、総じて発信頻度はそれほど高くない。
- ・なるべく回数を多くする。
- ・連合会、支会、自治会とそれぞれ必要に応じて発信している。
- ・頻度は月により違う。

○ 発信内容の工夫

- ・若い世代の興味を引く効果的な告知用デザインのチラシを作成している。
- ・繰り返し発信していく。簡潔にわかりやすく。
- ・イベント情報を始め、地区連や役員会の議事内容も適宜、積極的に情報発信に努めている。
- ・タイムリーで分かりやすい内容
- ・わかりやすく発信する
- ・町会からの主な情報発信は、イベントの告知や実施報告が主
- ・行事内容がわかる写真を投稿している。
- ・タイムリーな情報、子どもに関する発信をこころがける。
- ・一般の方の顔をぼかすようにしている。
- ・実施イベントの事前告知、実施状況を掲載している。
- ・写真を多く使った情報は、ホームページにアップするなど、情報内容によって発信方法を使い分け。
- ・実際の町会自治会の活動を知ってもらえるよう、活動写真などを掲載している。
- ・町自連の会議、市が配信するニュースなど、出来るだけ多くの情報を得るように心がけ、入手次第速やかに HP などへアップしている。
- ・イベント等の情報は、開催 1 週間程度前に発信するようにしている。
- ・役員、班長会においてコメントを含め会議後、回覧にて発信
- ・写真や動画、外部リンク等を活用し、可能な限りコンパクトで、活字のみにならない情報発信に努めている。

○ その他

- ・ 町会によっては複数の媒体を活用して情報発信をしている。
- ・ デジタルを活用した情報発信のため SNS の構築・運用を行っている。
- ・ 掲示物を「区民協働交流センター」のホームページに掲載し、誰でも閲覧できるようにしてもらっている。
- ・ 天候によるイベント変更など、リアルタイムの情報が要求される場合は、SNS を重視している。
- ・ 事業実施に向けて、効率的かつ適切に進めるため、自治町会の担当やイベントごとに LINE グループを作り、統制を図りながら、細やかな意思疎通を行っている。
- ・ 回覧物が濡れないよう、袋に入れている。

5 負担軽減の取組や読んでもらうための工夫

○ 負担軽減の取組

- ・ 掲示板への掲示は町会から委託業者に委託して掲示している町会もある。
- ・ 庁内各部や警察・消防等からの掲示板への掲示依頼を町会・自治会に直接依頼することを禁止し、区が窓口になることで、負担軽減を図っている。また、掲載期間を2週間程度とルールを設けることで、定期的に情報が更新される仕組みづくりをしている。
- ・ ポスターサイズを統一するよう区へ要請、区からの掲示物は6年度からA3横長かA4縦長に統一された。
- ・ 掲示板への掲示などで負担の軽減につながる取組としては、なるべく多くの役員で手分けをして作業するようにしている。また、ある程度掲示物をまとめて掲示作業の頻度を減らすようにしている。
- ・ 区や行政機関からの広報紙の回覧や掲示は、月1回と決め提出期限を設けている。
- ・ 掲示板の貼付を委託する。
- ・ 回覧板については、頻度を少なくするべく、行政等へ、依頼物はなるべくまとめて送付するよう働きかけている。
- ・ 掲示板については、A4判縦長にし、なるべく貼りやすいように統一している。
- ・ 区から依頼する掲示物については、町会の方が貼りやすいようにサイズをA4・タテに統一している。
- ・ コロナ禍を機に、区からの依頼については回覧板の利用を廃止した。
- ・ 月2回でまとめて、掲示板に掲示し、負担を減らしている。
- ・ 区からの送付物は、回覧板・掲示板担当者の作業負担軽減のため、月曜日発送とするように区内で周知している。
- ・ 回覧板の資料を区HPへ掲載。今後、電子回覧板としてLINEアカウントの作成を検討中
- ・ 掲示板への掲示においては、掲示依頼者に対し、A4サイズのチラシ作成依頼をするとともに、依頼頻度への配慮をお願いしている。
- ・ なるべく掲示・回覧物を少なくしている。
- ・ 回覧版は班長の負担軽減のため2か月に1回としている。補完策としてLINEにて情報を発信している。
- ・ 市内全体の自治会等へ配布物は、ホームページに掲載している。
- ・ 回覧方法（紙媒体又は電子）が自治会により様々であることから、行政文書等を各自治会へ配布・回覧・掲示依頼する際は、当該文書の電子データ提供を義務付けており、市ホームページに掲載することで、各自治会に選択の幅を持たせるとともに、配布物等担当者の負担軽減を図っている。

- ・市広報掲載記事、全戸配布物の回覧対象からの除外
- ・回覧及びポスター掲示の依頼時期の指定

○ 読んでもらうための工夫（デジタル）

- ・写真や動画を多く掲載し、「読む」ではなく「見る」情報発信の仕方を意識している。
- ・「回覧板&掲示板+LINE 公式アカウント」併用による周知を実施。幅広い年代で高い利用率の LINE を活用するとともに、紙媒体のみで情報を得ている高齢者のため、掲示板、回覧板での周知を行うことで、多くの町会加入者に情報を伝えることが可能となった。
- ・SNS を運営するに当たって、様々なコミュニケーション媒体と連携できるよう、発信するコンテンツをシンプルにしておくようにしている。
- ・自治会の行事について班長が独自に LINE で送信している班がある。

○ 読んでもらうための工夫（紙）

- ・掲示板は、掲出期間が過ぎたり部外者の掲示物を撤去するなど定期的な管理と発信する情報の鮮度が重要
- ・ポスターはシンプルな構成にし、伝わりやすいようポイントを押さえたものを作成している。
- ・一目で情報が分かるように、写真やカットなどを使用し、文字を少なくしている。
- ・遠くからでも目につきやすいようタイトルを大きくしている。
- ・回覧物を読んでもらうための工夫として、内容を一覧にした案内文を作成し、回覧板の表紙につけて回覧している。
- ・片面刷り 1 枚で、内容が分かるようにしている。
- ・見やすいように文字を大きくしている。
- ・回覧者の漏れがないように確認後にチェック欄を設けている。
- ・掲示板については、見やすいように（何でもかんでも貼らずに）真に効果的な情報を選んで貼るようにしている。
- ・通知やチラシ等文字を大きくして見やすくしている。
- ・掲示板を修繕する（きれいな掲示板の方が印象が良いし見てもらえる）。
- ・掲示物紙をそのまま貼らず、クリア袋にいれて掲示する（雨が降っても破れない）。

○ **その他**

- ・若い人はインスタなど SNS で発信したほうが情報をみってくれるが、年配者は従来からの掲示板や回覧板のほうが情報伝達度が高い。
- ・デジタル回覧板を行っているが、紙回覧も併用しているため、負担軽減にはつながっていない。

6 情報発信について住民からの感想や意見

○ 好意的な感想・意見

- ・ 町会内の情報発信については、役員間のみではなく、町会会員も参加しているラインのグループを作成し町会内の問題を共有するようにしているため、相談しやすい環境ができていて、とよい意見が寄せられている。
- ・ 事業に来た若い方に聞くと、HPを見た方が多い。
- ・ SNSでの情報発信については、若い世代からありがたいという声がある。
- ・ デジタル回覧板について「速やかに情報を得ることができる」「見返すことができるので便利である」との感想がある。
- ・ イベントの来場者にアンケートを実施。イベントの開催を何で知ったかについて、掲示板との回答が最多であったことから、アナログでの情報発信の有用性を実感している。
- ・ 毎月の広報誌によって「町会活動とは何をしているのか」「どういう方向へ進もうとしているのか」よくわかった。
- ・ 電子媒体で送った行事案内を見ていないと言われることもあり、かなり読み飛ばされる傾向がある。行事案内は紙媒体のほうが伝わりやすく、効果的
- ・ イベント情報を掲示板で知り参加したとの声が多数ある。
- ・ 子どもの野球チーム募集など掲示板で知り加入につながった。
- ・ 町会員以外の方から、イベント等の告知を掲示板で知ることができ、参加できた。
- ・ イベントでは市報を見たという方が多い。
- ・ 紙での資料が見やすいという意見がある。
- ・ わかりやすい。タイムリーに情報がわかった等

○ 課題・要望

- ・ 回覧板での周知は、回覧板を回す煩わしさから、特に若い方から電子掲示板等での周知が求められている。
- ・ 掲示板や回覧担当者の高齢化、担い手不足
- ・ 電子回覧板の導入
- ・ 掲示板の増設要求
- ・ 回覧板は回しても不在宅が多く、周知に時間を要し、情報が行き届かない。
- ・ イベント等の申込みを電話に限っているケースが多く、現役世代にとって申込みに対する精神的なハードルが高い。
- ・ イベントの掲示をもっとして欲しいとの声がある。
- ・ 区から依頼する掲示物の種類や頻度が多く、掲示板に貼れない、(高齢の)会員の負担が大きいなどの意見がある。

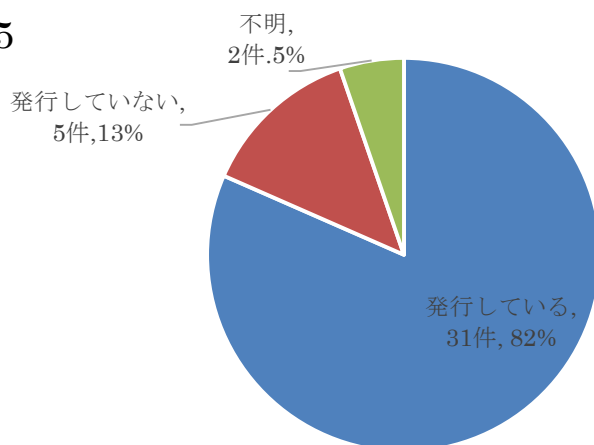
- ・紙の回覧板だと、時限的な情報（イベント案内・講座など）が後手になったり、再度確認することができず不便。
- ・回覧板の負担が大きいという声がある。
- ・掲示物が多すぎることで、雨風などにより掲出物が破損していること、掲出物が大きすぎるなどの意見がある。
- ・昨今の働き方改革、多様性、デジタル化による生活環境の変化に対応をしないのか、出来ないのか、判断に苦慮している。
- ・回覧の枚数が多い。
- ・回覧が回ってくるのが遅くイベントなどが終了した後に回ってくる。
- ・高齢者の人たちから「街中の掲示板とか、手元に届く回覧板はありがたい」との声が聞かれている。デジタル化も便利ではあるが、まだしばらくは紙とデジタル両方のハイブリット式が必要だと考えている。
- ・イベント等の案内が直近の場合は、送付されても周知する時間が無く困る。
- ・回覧板で情報共有を行う際、既に終了したイベントや申込期限が間近に迫っているもの等、情報の鮮度が落ちている場合が多い。また、自治会にとって不要な情報が混在しているケースも多い。
- ・「なぜ、紙媒体を使っているのか？」との質問があった。

7 広報物の発行について

<発行の有無>

連合組織又は加入されている単一町会・自治会において、広報物を発行しているという回答が31件、していないという回答が5件、不明という回答が2件であった。

図5



<発行頻度>

上記の広報物の発行頻度については以下のような回答があった。
なお、「その他」の内容はいずれも、不定期である、町会・自治会によって異なるといった趣旨の回答であった。

図6-1

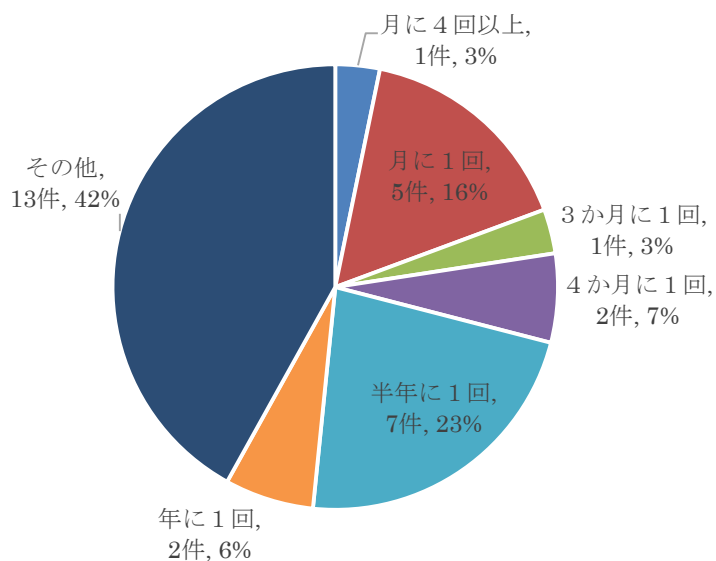
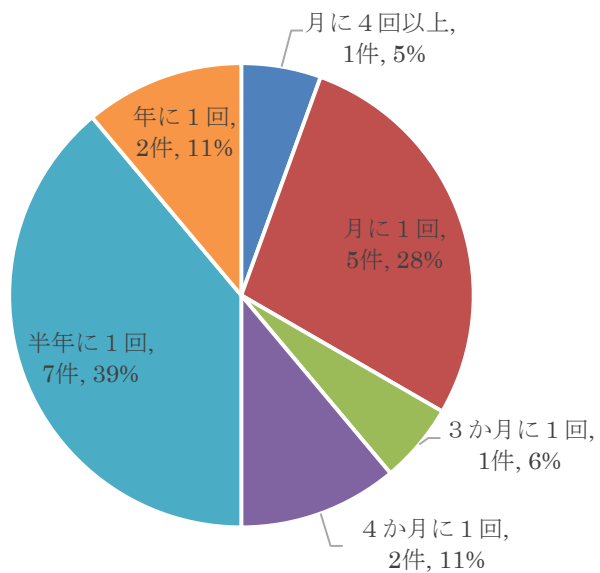


図 6-1 のとおり、発行頻度が不定期である、町会・自治会によって異なるといった「その他」が 40%を超えていたことから、参考として「その他」を除いた形での発行頻度の回答割合を以下に示す（図 6-2）。

図6-2



8 広報物で発信している内容

○ 主な回答内容

- ・ 地域のお知らせ・話題
- ・ 連合会・町会・自治会の紹介、活動紹介
- ・ イベントの案内・周知・開催報告等
- ・ 会議の案内・報告類
- ・ 決算・事業報告
- ・ 防災・防犯情報
- ・ 自治体や他団体からのお知らせ
- ・ 自治体の助成・支援制度紹介

○ その他の回答内容

- ・ エッセイ・コラム
- ・ 訃報
- ・ 単一町会・自治会向けの連合会への加入案内

9 広報物の発行についての工夫や課題

○ デザイン・レイアウトの工夫

- ・手に取って読んでもらえるような紙面。制作に負担がかかると続かないので、薄く・広くをコンセプトに進めるなどする。
- ・文字を大きくし量を減らして、写真を増やすなど、読み流してもイベントの楽しさが伝わるような紙面にするよう工夫している。
- ・写真を多く使い、見る人に行事の雰囲気伝わるように、見やすい紙面になるように工夫している。
- ・写真や図、色使い及びレイアウトなど、読者が見やすくなるように常に工夫をしている。
- ・写真を多く使い、見やすさを心がけている。
- ・掲示物や回覧物は、分かりやすいようになるべく大きな字でイラスト・写真等を活用している。印刷用紙もカラーの時もある。
- ・写真を多めにして見やすい記事にしている。

○ 内容の工夫

- ・「わかりやすく、読みやすく」町会の活動を知ってもらうことを心がけている。
- ・機関紙の作成に当たっては、ネタ切れにならないよう常にネタを収集するようにしている。
- ・固定のネタを定期的に見直して更新するなど、読者に飽きられないようにしている。
- ・特に注意してほしい事項については、繰り返し情報を発信するようにしている。
- ・地域のニュースや季節に合わせたイベント情報等の多様な内容で読み手に読んでもらえるような内容になるように工夫している。
- ・地域のホットな話題を取り入れるようにしている。
- ・会報誌を発行している町会は少なく、全体の1～2割程度と思われる。町会が発行しているため詳細は不明だが、会員の興味を引くために、地区の防災などの情報を盛り込んでいられるように見受けられる。
- ・近時は防犯に特に焦点を当て、市の安心安全情報の共有に意を用いている。
- ・月に1回の役員、班長会でのコメントを含めて記載
- ・役員会で掲載内容を協議し、不必要な情報や他媒体と重複する情報を可能な限り掲載しないように注意している。

○ ホームページ・QRコード等の活用

- ・広報紙をホームページに掲載
- ・SNS・ホームページ等のQRコードを掲載
- ・紙の発行に加えて、オンライン版も発行している。

- ・広報物にホームページの案内も行い、閲覧を促している。
- ・町会活動や行事を電子で申込できるように QR コードを掲載している。
- ・全戸配布とすることで、未加入者に町会・自治会の活動内容を紹介するとともに、市のホームページ内の加入フォームの二次元コードを掲載し、加入を促している。
- ・町内会の広報物に QR コードを付け、ブログが見られるようにしている。

○ 課題

- ・読み手の興味を引く内容に心がけるが、SNS の普及により文字より動画が主流となっている今、若者層に対しどのように取り込むかが課題となっている。
- ・編集スタッフの募集
- ・発行するきっかけ、人材
- ・紙面だけの広報が多いため、SNS などでの情報発信が課題である。
- ・手間とコスト、即時性の点から、SNS などに完全移行したいが、IT を使えない町会員も多いため、完全移行にはまだ時間がかかりそう。
- ・すべて手作りで、印刷も自前で行っている。文字を大きく、写真も掲載するため、紙面の制限がある。
- ・課題としては、町会加入率低下により、回覧板が地域全体への周知となっていない。また、掲示板は、スペースが限られているため、多くの情報は掲示できない。
- ・掲示板用のポスターの印刷に時間と経費がかかり、町会の負担となっている。
- ・作成者の負担、作成できる人が限られている。
- ・発行に当たって、印刷や郵送の費用が高騰していることから予算建てが難しくなっている。
- ・広報物発行に当たり、自治連合会の役員と事前に担当者を決めていないため、掲載予定の記事の行事が終了していても、掲載記事が固まらず時間がかかることや、内容の確認のやり取りが電子メールだけでなく、FAX 等を併用しながらで手間がかかること
- ・連合会では、記事の書き手が足りていないのが課題

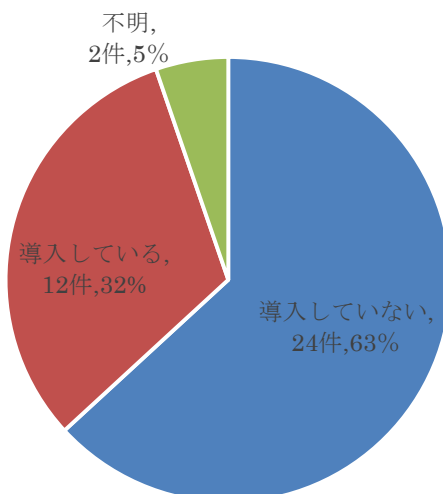
○ その他

- ・連合会だよりは各戸配布をし、自治会会員全員が見ることができる。
- ・新しい試みとして、自治会主催の地域イベント開催のチラシを、他地域にも個別にポスティング

10 電子回覧板の導入

連合組織又は加入されている単一町会・自治会における電子回覧板の導入について、導入しているという回答が12件、していないという回答が24件、不明という回答が2件であった。

図7



<導入している理由>

- ・町会活動の情報が会員に行き届きやすくすることを目的として、役員間で1年間程度試験運用の末、会として導入。紙回覧だけだと手元に残らないが、電子回覧板は見返せるところなどが評判
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、町会活動など「地域コミュニティ活動」の停滞が懸念され、「新たな日常」を踏まえた町会活動の構築が求められていることから導入し、実証実験を開始した。
- ・回覧が回ってくるのが遅いと、会員から苦情があり導入を決めた。
- ・小田急電鉄の「いちのいち」の導入に対して行っている補助に乗って希望する単一町会が導入している。
- ・情報伝達の高速化やデジタルを活用する幅広い世代の利便性を図ることで、自治会の魅力向上と加入促進につなげたい。
- ・地域の地区協議会のホームページの「自治会のひろば」コーナーを利用して、毎月の活動報告と重要イベント（祭礼、初詣、節分）の告知を行っている。

- ・東京都の実証実験に参加し、2022 年 9 月から「いちのいち」を導入した。目的は以下の 3 点
 - ①町内会・自治会の情報伝達をデジタル化し、役員の負担を軽減する。
 - ②町内会・自治会内の情報交換、情報共有を進め活動の活性化を目指す。
 - ③町内会・自治会未加入者に向けて町内会情報を発信することで、加入促進を図る。
- ・情報のオンタイム発信及び受信、アーカイブの共有ができるため
- ・導入している自治会では、電子回覧板に詳しい人物がいたことが大きいと思う。

＜導入していない理由＞

- ・連合町会としては、利用できるほどの IT リテラシーが無い人が一定数以上いるため導入していない。
- ・費用や閲覧できない住民が一定数いることが課題
- ・どういうものか、また、存在を知らなかった。
- ・導入するメリットよりも負担の方が大きい気がする。
- ・デジタルに詳しい役員がいない。
- ・ソフトやアプリが永続的に使用できるとは限らないため
- ・導入によるプラス効果のイメージが沸かないため
- ・デジタルを使いこなせない高齢者に情報がいきわたらない可能性があるため
- ・特に高齢者世帯は電子回覧板になじみにくい。
- ・望む声はあるが、コスト面でクリアできない。
- ・導入していないが、その代替として LINE 公式アカウントを開設している町会は増えてきている。新たなアプリをインストールしなくても良いことが理由と考えられる。
- ・初期費用がかかること、利用者にアプリをダウンロードしてもらう必要があることなどのハードルがある。そのため、初期費用が無料でほとんどの人が利用している LINE の活用が進んでいる。
- ・現状では、導入の必要性が把握できていない。また、導入した場合、どの程度活用されるかが不明
- ・町会員には、高齢者が多いためアプリの活用が難しいと思われる。
- ・町会・自治会に関連した情報に対しては、年配層が多いため、対応が難しい。
- ・対応できる人材がいない。
- ・コストやメリット・デメリットなどを踏まえ、現段階では導入に至っていない。
- ・組織内での意見も様々であり導入していない。